

別学維持アピール 決起大集会開催



同窓会報

第38号

印刷

発行 宮城県仙台第二高等学校
同窓会事務局
仙台市青葉区川内渡橋通一
〇二二一五六五(直通)
創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番三十四号



街頭行進で市民に訴え！・記念講演を電力ホールで

共学問題に関する集会は昨年十二月、今年七月に続き三回目の大集会の開催となる。大会は九月二十八日十七時から東北電力ホールで行われたが、これに先立ち十五時から同窓、保護者、一・二高の生徒有志など総勢百名による街頭アピール行進が一番町のアーケード街で賑わしく行われ、プラカードに書かれた別学維持の文字が道行く人に強い印象を与えていた。十七時からは電力ホールにおいて五百余名が集まり、決起大会が開かれた。二階堂正実行委員長の挨拶、西澤潤一同窓会長のメッセージが披露された。ご来賓からの祝辞はご来場の県議会議員を代表して相澤光哉議員、仙台一高同窓会長の手島典男氏、仙台一高PTA会長渡邊大助氏、宮三女父母教師会有志代表一條博氏の各氏から激励のご祝辞を頂いた。続いて現役二高生で編成する「ハッピーボーラッキー」と「マックストーン」2バンドによる演奏が行われた。その後、高橋正道同窓会副会長と鈴木蜜明仙二高PTA会長から共学問題の経過報告が行われた。基調講演は元NHKアナウンサーの鈴木健二氏により演題「男女別学の役割と効用」と題して約一時間、豊富な経験と教育についての持論を軽妙で洒落なお話で聴衆を魅了し内容のある講演であった。(この講演を要約して頂き別ページに掲載いたします)

知事選で 村井新知事誕生！

十月二十三日(日)行われた知事選挙で村井嘉弘氏が当選した。選挙は教育問題で一律共学化の見直しを公約に明言した村井氏と、現職の浅野知事が支援する前業氏との激戦になったが、村井氏が圧勝し新知事に就任した。新聞報道によると、新知事は県教委関係者から共学化問題など教育政策の課題について説明を受けたなど、公約実現に向けた動きを示している。課題が多い中、新知事の対応が注目される。尚、県教委が選挙期間中にも拘わらず未発表の公立校8校の日程を突然公表、一般には理解ができない暴挙として抗議文を提出、他校からも批判が高まっている。

別学高生有志連絡協
市内の公立校の生徒有志が共学化の反対活動を行って行く連絡協を設立。仙一高、二高、三高、宮一女、宮三女、今後、宮二女も参加予定。(河北、産経の報道より)

最後に同窓会平野豊会員により決議文(2ページに掲載)が力強く読み上げられ、これを全員で採択して二十時大集会を終了した。

九月二十八日大集会

決 議 文

平成十五年七月十八日、宮城県知事および宮城県教育長は一方的かつ唐突に平成十八年度に仙台二高を共学にする^{（一）}と発表しました。仙台二高同窓会は以来種々の検討を重ね、平成十六年七月、同計画の凍結を申し入れました。それに対する知事および教育長の回答は一律共学化は行政の問題であり、予定どおり実施することとした。しかし、その理由の第一は県立高校は税金で運営されているから、男女の別なく門戸を解放しろというものであります。税金はその使用目的に応じ適切に使われるべきであり男女共学化に直接結びつくものではありません。国立大学でさえ別学が存在し国費を投入しております。

理由は第二は平成六年の家庭科必修であります。全く独りよがりな理屈であります。理由の第三は、性差による入学制限はいけないというものであります。勿論、性差によって教育のレベルに差をつけるのは差別であります。しかし、だからといって教育の場において最初から最後まで男女同席を強いることは歪曲の論議であります。青少年には性差によって心身の発育の過程が異なります。とくに高校時代には著しいものがあります。イギリスでは十三世紀以来伝統的なバブリックスクールによる別学校が維持され、多くのノーベル賞学者や政治家等世界的な人材を輩出しています。戦勝国として日本の教育に共学を模倣したアメリカにおいても現在、別学復帰が続いております。国内においても、私立別学校は優秀な成績を上げております。低迷する宮城の教育行政はむしろそれらの現実的事例を謙虚に研究すべきであります。宮城県当局は自己の指導力不足を共学問題にすり替え、県民の目をそらすとしています。

平成十六年十月にいたり、仙台二高は市内公立高校8団体とともに、宮城県議会に対して地方自治法第二百二十四条による請願の申し立てを行いました。採択の結果は仙台二高についての、十七年度内に教育委員会と関係者がよく話し合うよう決議されています。すでに四回の話し合いが行われましたが、教育長らは関係者には十分に説明を尽くしたと称して、平成十九年度に向け、仙台二高共学化の計画を強行しようとしています。その背後にあつて男女共同参画社会の理念によって県立高校の一律共学計画を推進してきたのは浅野知事でありました。浅野知事就任以来、宮城県の財政は悪化の一途を辿り、借金は一兆四千万円で自力返済のメドがありません。理由の無い一律共学化は借金の増幅につながりかねません。二高のスポーツ施設に例をとれば体育館の使用は窮屈になり、女子ソフトボール等のスペースは確保できません。もっとも発育の進む高校時代を不完全な体育施設で運動することになり、心身の健全な成長を阻害するものであり、共学によって円満な人格を養うなどは県教委の責任のない発言であります。

仙台大高・宮一女・宮二女・宮三女等、仙台公立別学校六校、及び白石高・白石女子高・塩釜高・塩釜女子高等伝統を誇る県立別学校は知事及びそれに追従する教育長らによって、その存在意義を抹殺されようとしております。われわれは、地方の特性と歴史蹂躪する画一的行政に対して強く抗議すると共に志を同

「メッセージ」

同窓会会長 西澤 潤一

教育が何でも先進国が正しい、学生生徒の欲求を満たしてやるのが正しいと考える結果の失敗も少なくない。男女が共学すれば刺激が起る。当然肉体的発達が促される。甚だしい場合には理性の発達に阻害される。そして歯止め効かない自己中心主義の横行となる。我々の世代には、愛する人を迎えて家庭を築くためには先ず生活の保障が必要と考えたのも全くいじらしいことだった。が、今はそんなこと考えはしない。ついこの間まではニートになれば何となく、

じくする各団体および有志・県民に呼びかけて広く糾合し、手を緩めることなく合法的、かつ実施可能なあらゆる手段と方法とによって一律共学化計画を撤回させるまで協力して行動することを宣言いたします。同時に新知事に対し宮城県の教育行政を抜本的に見直しされるよう強く要望するものであります。

(仮称)仙台二高共学化調整会議 六回の会議の経過

仙台二高の共学化計画については、当初十八年度実施の県教委の計画が一年延期されその間、二高関係者と十分な話し合いを行い理解を得るようにとのことで調整会議は開始された。

会議は月一回、二時間、期間は十八年三月までの一年間、議事録を作成、立会人は県議会前文教警察委員長の安部県議に、会場は県庁舎内会議室と北陵館を交互に使用する、会議出席者は各五名とし、傍聴人出席を認める。報道関係には公開するなどのルールを協議の上決定した。

この会議は議会と教育委員会の要請によって開かれることでもあるので、共学化に関する数々の疑念を説明する機会として捉え、前向きに会議に臨むことになった。

限られた紙面であるので各回会議の論議の要点のみを掲載する。

●第一回会議 五月三十日

最初に会議の趣旨、内容、参集範囲、事前協議、事務局

などの基本的なことの確認が行われた。

1. 会議の名称についての確認が行われ、県教委提案の名称「共学化調整会議」を「共学問題調整会議」を主張し折り合わないで「仮称」をつけ、あくまでも正式名称とは認めないまま、会議を進めることになった。

県教委からは議会採択後の教育委員会の協議内容が説明された。その中で共学化一年延長を認める留意事項として「仙台二高の円滑な共学化を図る観点から共学化後のより良い学校づくりを目指すため速やかに仙台二高の同窓会・保護者などと真摯に話し合う必要がある」と述べている。

これに対して同窓会からの主要テーマは次の二点である。

1. 県議会の請願採択内容の解釈について

これについては議会採択の解釈について請願は否決されたのではなくて付帯意見つきで採択されたのであり、請願の趣旨は理解されたと考えら

れる。したがって附帯意見三項目は併せて考えるべきであるし、日程未発表の公立高校にも関係あることだとの主張である。これに対し県教委は付帯意見1・2については今後の問題とし三項(春季号掲載)の二高共学化の19年度実施のみにこだわり、そのため議論が進まない状況である。

2. 仙台二高共学化先行理由これについては一律共学化政策の決定に明確な理由がないと同様に理由を示されていない。学校内の体制が整ったと、学校当局からの意思表示があったということだが同窓会、保護者・生徒などの学校関係者は当時から現在も説明不足で理解はされていない。したがって会議は並行線を辿っている。

●第二回会議 七月二十五日
1. 共学化開始時期発表前の説明の有無について
2. 未発表校の日程について
3. 学力向上の対策について
4. 中期総合ビジョンについて
各課題について、説明、議論が行われたが、いずれも行政主導の一方的な進め方であり、県民、学校関係者の理解を得ていないといえない

●第三回会議 八月五日
1. PTAから提出の質問書への書面による回答
保護者からの素朴な疑問についての回答は納得性がなく、特に政策決定過程においてメリット・デメリットの論証がされていない事への疑問が指摘された

●第四回会議 八月三十一日
1. 共学化日程決定の課題について
2. 将来構想の関係者の理解を得るに付いての疑問について
3. 財政問題について
各課題について議論が進められたが県教委の姿勢は決めたことは変更できないと問答無用の姿勢に終始している。

●第五回会議 十月三日
1. 学校長の基本方針の説明
2. 仙台市の少子化推計と共学化の根拠について
教育長から共学化は統合・少子化によるものではなく性差による受験制限をすべきでないとの考えが披瀝された。

●第六回会議 十一月七日
十月二十一日、未発表八校の日程が発表されたが、知事選の最終段階でもあり、県教委の意図的発表ではないかとの疑惑が指摘され紛糾した。

新知事の公約への県教委の対応について質問が集中した。総論 六回の調整会議を経過して明確になったことは、重要な政策変更にも拘らず変更の理由が明確でないこと。関係者への説明責任が果たされていないこと。学校関係者の理解が得られていないこと。財政緊迫の中で今やる必要がある。などの問題点である。(高橋 正道)



共学化凍結請願団体だより

共学問題については、種々の方法で問題点の正しい認識に努力しているが報道関係に対して毎週「共学化凍結請願団体だより」を発行し県庁記者クラブに配っているので紹介する。

号 発行日 見出し

1. 17年4月23日 1) 共学とは別学に優るものなのか
2) 共学は時代の流れなのか？ 別学が無くなるのは必然？
2. 4月30日 1) 税金で営まれる県立高校は共学でなければならないのか？
2) 憂うべき学力低下……宮城県の学力は全国最低層
3. 5月7日 1) 県民の7割が一律共学化に賛成？ 平成11年県教委の共学化アンケートの疑問
4. 5月21日 1) 別学を不満とする県民はせいぜい1% 平成8年県教委実施「教育に関する県民意識調査」
5. 5月28日 1) 別学校にお子さんを通わせる保護者、別学を支持
『共学化問題研究会平成16年度調査』
6. 6月4日 1) 仙台二高共学化問題で二高関係者と県教委側との話し合い第1回開催される
7. 6月11日 1) 福島県内における10代の性感染症の急増——一律共学化実施済み県の例
8. 6月18日 1) 宮城県民の意志で維持した別学——宮城の別学は残したのだ！
9. 6月25日 1) 男女共同参画社会推進のため例外なき共学化——一律共学化ことの興り
10. 7月2日 1) 生徒は一律共学化に対して発言が自由なのか？ 生徒抑圧の事実
11. 7月9日 1) 一体どれほどの議論が為されたのか？ 有識者会議の杜撰な議論
12. 7月16日 1) 高校生保護者、一律共学化よりも学力向上を 納税者の願いは一律共学化に非ず
13. 7月23日 1) 高校生の問題行動——規範意識の低下 一律共学化は県民の願いに非ず
14. 7月30日 1) 御茶ノ水、奈良女子大——若い世代の卒業生ほど別学維持を支持
15. 8月6日 1) 県立高校の共学化日程発表の拠り所とは？ 各校提出の中期総合ビジョンなるもの
16. 8月20日 1) 理解こそ先決——“共学化は関係者の理解をえながら”と「県立高校将来構想」に
17. 8月27日 1) 男女一緒が自然だから高校も男女一緒——『県立高校将来構想』の示す共学化理由
18. 9月3日 1) 別学校に入った生徒、別学校の良さを実感——共学化問題研究会調査より
19. 9月17日 1) 男児別学は憲法違反か？ 別学は憲法違反に非ず
20. 9月24日 1) 別学の選択肢を残すべき・一部を残す理由なし？ 伝統は新たに作ればいい？
21. 10月1日 1) 保護者、一律共学化は教育改革に値せずと回答——共学化問題研究会調査より
22. 10月8日 1) 一律共学化の凍結？——福島県内における10代後半中絶率の2年連続全国第3位
23. 10月15日 1) 男女共同参画社会推進のため県立高校はすべて共学化すべき——一律共学化の発端
24. 10月21日 1) 男女共学は無条件に良いものなのか？——海外では別学・共学を比較研究

第17号 平成17年8月27日(土)

共学化凍結請願団体

共学化凍結請願団体だより

男女一緒が自然だから高校も男女一緒——『県立高校将来構想』の示す共学化理由

県教委は将来構想の中で男女共学化の理由を幾つか挙げています。何れも合理性が有りません。

- 男女共同参画社会推進のため男女共学化を推進。
 - 高校生という多感な時期に、男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設けることが教育環境として望ましい。
 - 社会の在り方の反映である学校においては、男女が別々に学ぶよりも共に学ぶ方が自然である。
 - 県民の負担で建設されている県立高校においては、性差による入学制限を設けることは好ましくない。
 - 平成11年9月に県が独自にまとめた調査結果：高校の共学化に対して7割弱が「賛成」あるいは「どちらか」という結果が出ている。
- 1) 男女共同参画社会と一律共学化がどう結びつくのか将来構想は一切説明していません。県の「男女共同参画審議会」の中で成る委員が次の様な旨を発言しています。「男女共同参画社会の根柢として管理職に占める女性の割合、県立高校の男女共学化率と有る。宮城県の場合この取組が足りない。県の行政で出来ることであるから進めよ。」(平成15年度第1回宮城県男女共同参画審議会第1回)しかし、なぜ共学化率が男女共同参画社会推進と繋がるとか合理性は見だせません。
 - 2) 多感な時期であればこそ、異性の存在を気にすることなく自らの志望の科目や部活動に専念したいという希望も根に多く有ります。男女一緒に学ぶ意義も有れば、分かれて学ぶ意義も有ります。双方の価値を同等に認めて良いはずではないでしょうか？
 - 3) 世の中男女一緒が自然、だから学校も男女一緒が自然なのでしょう？ 人間社会、必ずしも何時でも何処でも男女が一緒とは限りません。諸国諸社会を巡り見ても、男だけの社会、女だけの社会が存在します。それも自然です。それに、学校が「社会の在り方の反映」とするなら、犯罪者まで学校に食わせて置かねばならないことになりませんか？
 - 4) 税金で営まれている高校だから性差による入学制限は好ましく無いというの短絡的では？ 高校は義務教育外であり、別学・共学の選択肢が有っても良いのではないのでしょうか？ 現に国立の大学にも高校にも別学(お茶大、筑駒等)は存在します。国も共学を推奨するものではないと答えています。
 - 5) 平成11年に県が独自に集めた調査結果とは同年6月に県教委が行ったアンケートのこと、そのアンケートでは「一律共学化」を問うてはいません。しかも、宮城県では公立の別学比率が全国でも最高、全国的には共学化の流れと説明し、誘導的です。更に、調査対象が少数の中学校や高校に限られ、その高校では入学年無関係1年生のみが対象であり、別学校の良さを体験している2年生3年生は外され、非あつた。客観性や公平さに欠けるものであり、これを県民の意見とするには差支ひです。

共学化凍結請願書連名連絡会事務局
仙台市青葉区川内股橋通1 北校舎内
FAX: 022-221-6686

(17号のみ掲載いたします。ご希望があればバックナンバーをご連絡ください)

鈴木健二氏講演録（別学維持アピール決起大集会での基調講演）

演題 「男女別学の効用と役割」

- 1 講演日時 平成十七年九月二十八日（水）
十八時三十分～十九時三十分
- 2 講演場所 東北電力ホール 七階大ホール
- 3 主催 仙台二高同窓会
- 共催 仙台二高の伝統を守る会・宮城県の別学を守る仙台二高親の会
- 協賛 共学化凍結請願書連名連絡会

この意義ある大会にお招き戴きまして、大変光栄に存じております。しかし、生憎、夕食の時間でございます。

これからの私の拙い話に耐え抜くということも大変でございますが、空腹に耐え抜くというのはそれ以上に大変なことだと思いますが、一時間ほどお付き合いをお願いしておきます。

私は、昭和二十七年の三月に旧制東北大学法文学部の美学美術史学科をビリで卒業いたしました（笑い）。

国を興すものは教育である

ここに一冊のパンフレットを持って参りました。これは、昭和五十九年三月二十二日に内閣総理大臣中曽根康

弘さん宛の答申書であります。現在、中央教育審議会が開かれております。その前は臨教審と申しました。その臨教審を作るためのたたき台に「文化と教育に関する懇談会」という総理大臣の諮問機関が作られました。そのメンバーは、亡くなりましたがソニーの会長の井深さん、それからやはり亡くなられたのですが、京都大学の田中美知太郎先生、ご承知のように、田中先生は原爆で顔の左半分に大きなやけどを背負われました。それからやはり亡くなられましたが、評論家の山本七平さん、それと作家の曾野綾子さん、それと私でした。

一年間審議をするといったのですが、予定を早めまして八か月で審議を終わりました。そして当時の総理大臣であった、教育改革を主張なさった中曽根さん宛にこの答申書を出しました。そしてその最後の方に、「鈴木委員から特別の提言があったのでここに付記いたします」と、私の提言が特別付録として載っております。

そこに私は何と書いたかと申しますと、真ん中頃に『政府は、「国を興すものは教育である」という理念を高く掲げ、つまり今の日本で何が必要でしようか。経済の回復も必要です、政治の立て直しも必要です。だけど今の日本に何が一番大切かというと、一に教育、二に教育、三に教育なのです。それを政府は高く掲げてほしい』と書いています。

「所信表明演説を国会でやる。だけど、あんなのは半年経てばころっと変わってしまう。前の所信表明なんか誰も覚えていない。けども、もしあなたが教育演説をやったならば、その教育の効果は、ちやうど私達の時代が明治に

発布された教育勅語で一貫して終戦まで続いたように、何十年も時には何世紀も続いていく大変大きな方針なのだ。それができるくらい総理大臣にあなたになってほしい、私は歴代総理大臣にそう申しました。

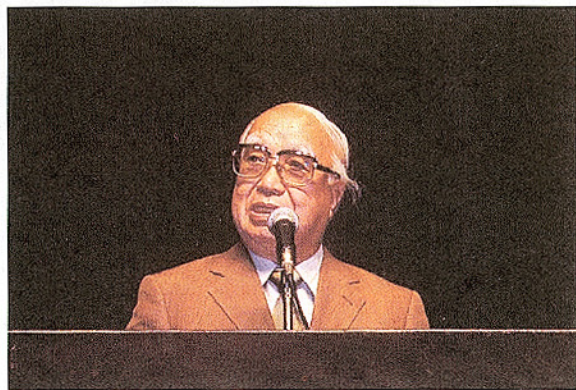
で、そのために、「国を興すものは教育である」という理念を政府は高く掲げてほしい。

日本の教育は人格の陶冶とすることを最優先にしております。

しかし私の考えは違います。教育というのは「よき市民をつくる」ためです。

「あなた、人格を陶冶していますか？」といわれたって、誰だって「ええ、していますよ」と答えられる人は一人もありません。だいいち、子供には意味が分かりません。

しかし、「あなたは親子・兄弟仲良くしていますか？」「隣の人と仲良くしていますか？」「学校の友達と手をうなぎ合っていますか？」、そういうよき市民であるということについては、誰しも自分はそのような努力をしていますと答えられます。



する部分、そういうところを一所懸命やって下さいます。

また進学に関しても大変熱心です。けれども教育は、特に男の子はそれ以上のものを必要としているのです。

男子の学校は男の子ならではの教育があるのです。それを支えるのが父親なのです。ですから私は、別学に賛成する一つの条件として、ほかに条件を付けません。

これから皆さんがこのPTAに85%以上、どうして100%じゃないんだと仰るかも知れませんが、お父さんのいない子もいますし、いろんな事情でその日お父さんが出られない人もいます。

だけでもそのようにして土曜、日曜の夕方にちゃんと三か月前、四か月前に予告して開けば、お父さんが集まることのできるのです。これが私が男女別学に賛成する一つの条件です。

男の子の教育を学校だけに任せてはいけません。男親がそこにいるから教育ができるのです。今、男親が教育からどんどん逃げ出してしまっています。

市民活動のほとんどが女性

に占められるようになってきました。

その最たるものがPTAなのです。私はよくPTAに招かれますが、「現在のPTAならば三年間休止しない」と言っています。「そしてもう一度PTAが必要だと思ったら皆さんで作らない。今のPTAだったら全くPTAの役目は果たしていない。三年間、このPTAを休みなさい」と主張してもう二十数年になるのです。

男の子の教育に何が必要か
男の子の教育に何が必要であるか。

私は東京大空襲で、生まれ故郷を失ったその直後に弘前に行き、旧制弘前高校に入学しました。それまで中学校の四年間戦争でした。勉強ができたのは三年まででした。四年の時にはもう工場へ勤労働員で働かされました。

そして女の子は、昔は中学と言わないで、女子高等学校と言いました。その高等学校の女生徒の皆さんも工場へ駆り出されて行ったのです。満

足に勉強できたのは、十七年、十八年まででした。

もう、十九年は全く勉強できませんでした。

その中であっても、なおかつ自分一人の志を立てようと考えることができたのは、中学校が男の子ばかりだったからです。

男ばかりで、「どうしたら戦場でよりよく死ぬことができるか」「そのためにはどういうふうにならなければならぬか」ということを朝から晩までみんな話合いました。その中から、私は最下級の兵隊にされて死ぬのを知りながら、高等学校で本を読む決心を生むことができたのです。

それまで私は、女性に対する一つの憧れのようなものを持っていました。女の子が学校にいたのは、尋常小学校だけです。

旧制中学、旧制高校、旧制大学、東北大学はかつての帝国大学の中で、ただ一つ女性に門を開いていたのです。

しかし私がおりました頃、女性の学生さんというのは少なくとも私の周囲にはおりませんでした。つまり男ばかりの中で何が培われたかという、女性はどうなかに美しい存在なのかという憧れでした。

男女七歳にして 席を同じうせず

「男女七歳にして、席を同じうせず」と申します。男女共学の問題が出てくると、すぐにこの言葉が出てきます。そしてそれは古い考えだ、ああいう考えは駄目なのだと短絡します。これはとてもないことです。

あれは中国の「礼記」という本の中に出てくる言葉であります。紀元前五世紀です。あれは、離すことによって、男の子は女の子に、女の子は男の子に対してそれぞれどういう存在なんだろうという憧れを持つという中国人の素晴らしい知恵なのです。

日常接していたら、生活から先に覚えてしまうのです。人間にとって必要なのは「心」なのです。心をどうやって培って行くか、そのためには、まず女性とはどういう人なのだろう、どんな素敵な人なのだろう、そのことを心の中に思い描く、イメージを描くということなのです。

男女共学になりますと、イメージがないんです。生活そのものの女の子が側にいる。生活している男の子といきなり

り接してしまうのです。

男性が女性に、女性が男性に描いていた美しいイメージがないのです。

私は、今の若い人よりも遙かに多く、女性の美しさに対する憧れを持っていると自分で信じています。それは男の子の学校だけを卒業してきたからです。

私は、出版した本が二五〇冊ほどありますが、その中に何か所も書いています。「神様は、この世の中に二つの美しい存在をお創りになった。一つは大自然です。もう一つは女性です」と。

女性を美しい存在と見るのは当然男の子なのです。その気持ちはどこで培われるかというと青春時代なのです。それが今は、女としての生き物の女性が目の前にいるのです。

しかも、どうですか？ 最近女子高生生の制服がミニスカートじゃないですか。それでも、ひざ上あたりならいいですよ。今やお尻すくすくじゃないですか（笑）。スカートというより上着の長いといった方がいいわけですね。そんな子が授業中ずっ

と、一日中隣りに座ってご覧なさい。男の子は勉強なんてできるもんじゃありませんよ（拍手）。鼻血が出るばかりでございますよ（爆笑・拍手）。そういう中に今の男の子達はおかれていますのです。そこで現実は何が起こりますか？

今、日本で中絶手術をして人間として本来生まれてくる胎児が闇から闇に葬られて死んで行くその件数が、届出だけで年間約四十五万件あります。実数はこれの二倍或いは三倍といわれています。

生命尊重センターというお腹の中の赤ちゃんを守ろうという運動を展開しているボランティア団体がありますが、ここの調査によりますと、終戦このかた、中絶によって葬られた胎児の数は六千万人を超えるのです。片や少子化なのです。

そのうちの14%が十代の未婚の女性、つまり高校生なのです。

これはヨーロッパの中絶大国といわれているロシアの四倍以上にも上るのです。皆さんの知らない間に、皆さんの娘さんが中絶手術を受けてい

るんです。

東北地方は平均よりも1%高く、青森県は2%高いのです。そういうことが現実に行われているのです。女子大生よりも女子高生の方が多いのです。

いつか、学校でいろいろ暴力沙汰がありまして、生徒達の持ち物を検査するということがありました。しかし、女子生徒はカバンの中に生理用品などが入っている場合もあるから、女子生徒はやめようということになりました。

ところがある高校で女子の検査をいたしました。そして何と、60%が避妊用具を持っていたのです。なぜそうなるか？ 男女共学だからです。直ぐ側に男の子がいるからです。女の子がいるからです。

三年前にピルが解禁になりました。私はその胎児を守る会の応援団長をしております。そこで政府に提出する文書を何年か一遍書いてやったりしています。

そのときもピルが必要な人もいますので、「お医者さんの診断書を持ってくる人にだけピルを販売してほしい。そうでないと、性教育が全くでき

ていないこの日本においては、ピルの販売と同時に、いわゆる性感染症があつという間に蔓延してしまうだろう。そして性道徳もあつという間に落ちてしまふだろう。そのためにも、厳重な規制を設けてほしい」という文書を書いて政府に提案しましたが、生む生まないは女の勝手よとか、男性にバイアグラを許可したのだからなどの妙な理由で拒否されました。

性の後ろに責任あり

日本は、こうした規制というものが非常に甘いのです。

アメリカやヨーロッパは、日本より四十年前に解禁いたしました。だけど向こうはちゃんと親と娘が話合うのです、勿論息子とも。

「あなた達が性を楽しむ年代に入ったことは、私達も人間として認める。ただし、性の後ろには責任があるのだということも十分に承知してほしい。その責任とは何か。もし子供ができたら子供を育てることだ。親となることだ。親になるのは簡単だ。だけれど、親であることは難しいのだ」そういうことを何日も話を

するのです。そしてピルを与えるのです。

しかし、日本にはそういう教育は全くありません。性の問題は、大人になれば自然に覚えるものだというのが日本人の考え方です。

案の定、ピルの解禁と同時に、今、十代、二十代の若者に性感染症があつという間に広まり、今や手のつけようがないのです。

これが二〇一〇年ぐらいになってご覧なさい。若者の十分の一ぐらいは、ほとんど性感染症或いはエイズにかかるだろうといわれています。そのくらい性の持つ悪が、すぐ目の前の自分の生活の中で展開してしまうのです。その大きな理由に男女共学があるのです。

ちょうど中学から高校に行く頃に、人間は生理的に一番成長をいたします。女性ならば、十七〜八歳がこの成長の頂点です。男性ならば二十二〜三歳です。

ですから十七〜八歳、つまり高校二年生、三年生の女の子というのは、女性として生理的に最も頂点にあるのです。瑞々しい時代なのです。あの

時代の女性は化粧しなくても綺麗なのです。

ところが今、どうですか？ 女子高校生が学校の帰りに化粧を始める。土曜、日曜の休みの日には、まあ、狸がビックリするような顔をして（笑い）、一番町にやってくる。

あんな必要のないのです。放っておいたって一番美しいです。それを何でお化粧しますか？

「男の子の前でちょっと格好よくしたいから」というのが理由なのです。

私は女性の美しさに対する憧れを今でも持っております。それは男としての一つの生き甲斐であります。自分の描く女性に一生の間、一回でも巡り会いたい、そういう気持ちで湧いてくるのです。

中高一貫の七年教育を

先程の答申の中の付帯決議のところには私は「現在の六三制は人間の正常な成長を阻止する」と書いています。

私共の時は先程申しました通り中学は五年でございました。

一年に入ったときは何をやるのか分かりません。そして五年になると入学試験を受け

なければなりません。しかし、真ん中に三年あるわけですね。ですから、十分に本が読めました。スポーツにも十分に打ち込むことができました。ここに三年間のゆとりがあったのです。

今は三年でございましょう。一年の時は何をやるんだか分からない。三年の時はもう受験に引っぱられたら、青春を高校や中学で楽しむ時間は一年しかないのです。これでは人間の正常な発展にはならないです。

ですから私がここに提案しておりますのは、「さまざま可能性の伸展のために、中学校を四年、高等学校を三年とし、できればこれを一緒にして中高一貫の七年教育をしてほしい。大学は三年でいい」。今の大学は四年ですが、三年で十分単位が取れるのです。私がこれをやりますときに、私立大学の学長さんにお集まり戴きました。大勢おいでになりました。

「私の案では大学を三年にします」と言ったら、私立大学の学長さんは全員反対しました。「なぜですか？」と聞いたら、「大学の経営ができ

なくなる」と。いや、少子社会で大学の経営ができなくなる時代はもうすぐ始まりですよ。このまま子供が少なくなっていくと、いつかは願書さえ出せば大学に入れるようになってしましますよ。大学生がこんなに遊んでいる国はよそにはありませんよ。それは三年で取れる単位を四年もかけるからこんなに遊んでるのです。もっとびっしり勉強して、そして充実した青春時代を送って社会に出てきたらいいではありませんか」と申しました。

私はさらに、「大学生の社会に対する義務を負わせるために、大学の卒業年度をできれば二十歳にしてほしい」と書いてあるのです。そして「大学生に社会的責任を持たせなさい」と。それは男の子も女の子も同じです。

そういうのを「平等」というのです。単に高等学校を受験する機会が一緒でなければいけないなどというのは「平等」の中には入らないのです。男性・女性がそれぞれの特性を活かして、そしてそれが社会に貢献してはじめて「平等」なのです。

漢文と百人一首の教育

男の子ばかりだったら漢文教育ができるのです。男の子にはやはり、「白髪三千丈」的な大きな気持ちが必要なのです。

弘前高等学校の学生自治寮の名前を「北漢寮」と申し出てくる言葉です。

『北漢に魚あり。その名を鰻』という。北の海に大きな魚がいた。その魚の名前は「鰻」という。

『化して、鵬』となり、一翼千里。この魚が成長して、「おおとり」となり、一回羽ばたけば千里を飛んでいった、というのです。

こういう壮大な気風を覚えるのは漢文なのです。こういう教育は女の子についていけないのです。

江戸時代、お母さんは何をテキストにして娘に女の優しさを教えたでしょうか？

それは「百人一首」なのです。百人一首で女の子に優しさを教えていったのです。女の子の物思いのしかたを教えていったのです。

それが明治になって、樋口一葉をはじめ多くの女流の文

学を生んでいく一つの大きな基礎になって行くわけです。テキストが違うのです。男

の子には男の子のテキスト、女の子には女の子のテキストがあるのです。

だから男の子に漢文を教えたら、女の子には源氏物語以降の和文の優しいものを教えられる方がいいのです。

何が一番肝腎なのか？

それは男性は男らしく、女性性は女らしく、そしてそれぞれが自分の特長を活かして生きて行く、そのところが大切なのです。

考える子供を育てる

そしてもう一つは男の子が集まった場合、理科教育が本格的にできるといことです。

なぜ私がこういうことを申し上げるかといいますと、私が青森におりました時に、今の子供達は「考えない子供」になってしまっているのです。

電卓をたたけば答えが出るのに、僕達、私達は何で学校で算数を教わらなければならないの？

って、その子供達の間に大人達、先生達が答えられないのです。

そしてコンピュータをたた

きます。インターネットで情報が出ます。これは他人が考えた情報なのです。情報で必要なのは、必要な情報を取り出したら、そこから自分で考えるということが必要なのです。

その「考える」ということを、日本の教育は明治以来やってこないのです。先生が仰ったことに一番近い答えを書いた子が優等生という、口伝の教育しかやってこないのです。

ですから今、子供達に何とか自分で考える教育が必要と考えまして、私は、「自分で考える子になろう」というタイトルで、ボランティアで小学校をこれまでに二〇〇校ぐらい回りました。理科と算数を、私は文科系ですから理科も算数も分からないのですが、何とか自分で教材をこしらえて、一時間半授業をして廻りました。

例えば、ペットボトルの中に水を入れて、大きいのを口のところで二つつけた実験道具を自分で作りました。

そして子供達用に、普通のペットボトルをつなぎ合わせたものを十個ぐらい作りまし

でやってみせてから、「はい、あなた達のために小さいのを作ってきたよ。やってみたい人！」と言うと、四年生までは一斉に手が上がるのです。「はい、はい、はい、……」って。中には教壇まで飛び出してくる子もいます。

ところが、五年生になると女の子は全く手を上げなくなるのです。恥ずかしいのです。この頃から、女の子には女の子としての恥ずかしさが表に出てくるのです。

ですから私は理科の実験の時に、最初に女の子にやらせました。高等学校で今、女の子の理科離れを防ごうと懸命になって活動している先生達があります。もう、一千年間やっているので。女の子達がどんな理科から離れていくのです。

男らしく・女らしく

男女の特長を生かす

外国に行ってみて下さい。私、ビックリしました。一九七二年から三年頃、私はヨーロッパの放送局とか、アメリカの放送局で少し働きました。

ところが、スタジオに入っ

てビックリしました。カメラマンもミキサーもそれからライトマンもそしてディレクターも全部女性なのです。

私は昭和の終わりとともに放送局を去ったのですが、私が出るまで、あのNHKに技術者で女性は一人もいなかったのです。勿論、民族さんにもいませんでした。

ところが、よその国は、例えばニュースで編集会議をやりますと、そのところには男性もいます。

しかし、今度はキャスターを映す、今度はビデオを出す、今度はテロップを出す、今度は写真を出す、そういうきちんとした順序ででき上がり、さあ、本番となりますと、女性の方が遙かに能力が高いのです。決められたことをきちんと守って繰り返してやって行く、この能力はとも男性の及ぶところではありません。ですから、そういうところに出てくると、女性が全く大きな存在になってくるのです。つまり、女性の能力をはっきりと放送局の人間は知ってるのです。

“女性にお茶くみをさせる”“と言って、労働組合が

大騒ぎをしていた時代がありました。

私は世界の労使合同大会を傍聴しに行ったことがあります。そして、日本から「日本は今、女性のお茶くみが大変大きな労働問題になっている。どう思うか？」という発言がありました。

ところが、世界各国の労使が黙っているのです。そしてやがてのことに、ある国の人が口を開きました。「日本と

いうのはおかしい国だね。お茶をくむというのは、労働の問題じゃないよ。それはマナーの問題だよ。それは女性の優しさの方がいいんだよ」と、ここが違うんですね。こういうのが本当に男女それぞれの長を活かしている、それが初めて「平等」なのです。

そして女性は進んでそういうことを自分からやり、それを男性が感謝すると同時に、その中に女性の優しさや振る舞いの美しさを感じ取って行く。そこが大切なのです。

異性への憧れが人間としての存在感

若い時代に、お互いに強い憧れを抱いて行く、そのと

ころに人間が男性として、また女性として存在する大きな理由があります。

そして体育の問題が一つあるのです。どうしても男の子と女の子では体育の競技も違いますし、同じ走ってもその度合いが違うのです。

私、中学の時に水泳部に入っておりまして。男の子ばかりでございましたし、しかも競争中でしたから、厳しい、厳しい訓練でございました。

しかし、今でも卒業した学校の水泳部から知らせがくるのです。男女共学です。そうすると男子が練習します。男の子と女の子が一緒にレースをするわけに行かない。スピードが違います。女の子がやっている間、男の子が待っていないといけないのです。今度は男の子がやっている間は、女の子が待つ。練習が半分しかできない。

これではちょうど伸び盛りの体力を伸ばすことができない。男の子ばかりだったら怒鳴っても何でもできます。

あの東京オリンピックのバレーボールで女性のチームが優勝しました。監督が大松さんという方でございました。

大松さんが私にこう仰いました。

“男の選手は十日間練習するとして、十日間朝から晩までやればいい。だけど、女の子を訓練するときには一週間やる。そしてあとの三日間は、‘お前達は日本一、世界一の選手なんだ’ということをお願い続ける。心を励まし続ける。それが男子の選手と女子の選手の育て方の違いです”と言いました。あの世界で初めて女性バレーボールを優勝に導いた大松さんの言葉です。

大松さんは知っているのです。“女の子は心から励ましていく、男の子は鍛えていく間に自分で考える”

女の子には、“お前達は世界で一番の選手なんだ”ということを言い続けることによって励まし、そして練習に打ち込んで行く。それが世界ナンバーワンに輝いたのです。こういうことは男女共学ではできないのです。

それぞれが男性としての、女性としての長所を持っているのです。

私は先程の小学校の理科の時、女の子達を先に実験を

やらせました。女の子達は分かっているのです。分かっているけれども恥ずかしくて手があがらない。

私は「答えはいくら間違ってもいい。その時、自分が考えたこと、自分が思ったことだからそれを素直に言えればいいんだ。間違った答えの中からもいろいろな新しい発見がある場合があるんだ」と何度も言います。

「また間違えた答えを言っても、ほかの子は、あの子、馬鹿なんだ」と笑ったら駄目なのだ。一番いけないのは、誰かがやってくれるだろうと思っ

「殊に女の子に言っておくが、そうやって手を上げないで、男の子がやってくれるだろうと思っ

私が「間違えてもいいから、答えはいくら間違えてもいいから」と十分おきに言うのです、授業中に。

そうすると、授業が終わるとこの学校もそうでしたが担任の先生が、「あれだけ繰り返して教えると、普段授業で手をあげない子が手をあげるようになるのですね」と、言うのです。教え方や励まし方なのです。

向上心と

人のために生きる心を

私はこの十数年、ずっとボランティア活動をしました。それは当時、私は十八歳でございましたが、北国に戦争で親を失った「子供の家」がありました。

私も戦争で家を失いました。だけど私は幸い、両親が生き残りました。だけどこの子達は、戦場でお父さんが死に、戦災でお母さんが亡くなってしまったのです。

どういう生活をしているかと思ひ、中に入りました。六十八人の子供達がそこで暮らしていたのですが、中に一人知的障害の女の子がいました。ところが、この子が朝から

晩までみんなの洗濯物を一手に引き受けて一所懸命洗濯をしてくれました。

その子にお礼をするお煎餅一枚、給一つありませんでした。終戦直後の大食糧難時代です。何がお礼かというと、私が、「どうもありがとう」と言うのと、それが分かるのか、かすかに微笑んでくれたように思いました。

ほかの子達が、「お姉ちゃん、ありがとう」と言うのと、ああ、分かってくれたのだと思うくらい、かすかに微笑みが顔に浮かんだように思いました。

だけでも、その冷たい手を温める暖房もありませんでした。どうやって温めるかというと、私が一分でも二分でも暇があると、その子の手を私の上着の腋の下に入れて、じっと抱いておりました。夜はその子が寝つくまで、その子の手をここに入れておいてやり

ました。その手の冷たさが心臓が凍りつくようだったのを私は今でも憶えております。私は今でも憶えております。

けれども私はその知的障害の女の子が、みんなのために一所懸命洗濯している姿を見て、人の生き方を知りました。

人間には二つの生き甲斐があるのだということを。

一つは、今、自分はこれでもいいのかという反省に基づいた向上心です。こういうものを男性は男性、女性は女性の中で、話し合うことによってよりよく青春時代に伸びて行くんです。

もう一つは、今、自分は自分以外の人のために何が出来るだろうか、人のために生きてこそ人ということです。

この二つを生き甲斐にするのだということを、私はその知的障害の女の子の洗濯する姿から教えてもらいました。

いつかあの子のように生きて行きたいというのが、十八歳の私の青春の思いでございました。放送局が終わるや否や、私は地方に飛び出しました。以来十五年間、

村おこし、町おこしをボランティアでやって参りました。それも、十八歳という多感な時代だからこそ持てた意志と希望でございました。

そしてそれを教えてくれたのは、知的障害のある女の子であったということです。

男の子であつたら洗濯することを思いつくでしょうか？女の子だからみんなの洗濯をしてやろうと思ったのではないのでしょうか？

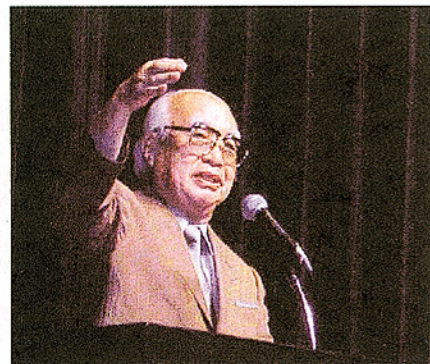
そこにそれぞれが生きて行く大きな意味があつて、そしてそれがお互いの心に大きな影響を与える。

その最も大きな影響を与えるのが、中学・高校の青春時代なのです。その青春時代をよりよく活かすためには、私は共学よりも別学の方がよいと信じております。

ただし、その条件はお父さんがPTAに85%以上出てくることです。

長時間のご静聴ありがとうございます。

以上



同期会報告

第9回在京同級会開催

第9回 同期会 佐藤 広志



同級会は十月十四日東京西武プリンスホテルで開催しました。

麻喜が奈良から、井上俊が京都から、仙台から田中光彦、加藤雄一が参加していただき三十一名の盛大な会となりました。

麻喜が開会挨拶、加藤雄一が仙台の同窓会の様子を話し、田中光彦の乾杯で始まりました。

田中が仙台から「ずんだもち」二箱を差し入れていただき盛り上がり、中華料理で会食し、各自近況を話していただきました。

今回は甲子園出場の話はあまりなく、盛り上がったのは、斉藤直の昭和三十五年、ローマオリンピックに東北大学のボートクルーとして参加した事です。

麻喜から仙台二高で一番偉いといはれました。

麻喜は現在マラソンをしており、今年のホノルルマラソンに出場予定とか、井上俊は現在甲南女子大の教授をしていて、明日入試の監督をするので今日中に京都に帰るとのこと。

私、佐藤広志は会社定年退職後すぐに、軽い脳梗塞を起し、七年間かかって、元の様にはなりません、右足が不自由です。

同期情報誌「ピンピン」

高十一回 鈴木 壮夫

還暦を新たな旅立ちと理解し、共に歩む同期生間のより強大な連帯感を祈念し、同期情報誌「ピンピン」を生み出して五年が経過した。今春

柴田俊一は薬学博士として日本薬科大学で講師をしている。

下高一雄は住宅公団を退職後、「ピーエス三菱」の常任顧問をしている。

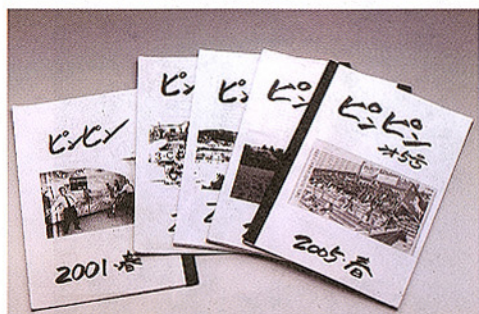
結城良照は映画プロデューサーとして、活躍している。

平磯は前の会社の顧問として残っております。今回の会でも設営したいただき深く感謝しております。

最後に校歌を麻喜が、凱歌を皆田が主導で歌い、楽しい会が完了しました。

他の出席者は、池上誠、加藤義之、高橋三夫、千葉俊風、三好成実、山崎隆康、佐々木志郎、青山淑雄、伊藤文夫、大井碧、大柳二郎、小山健治、伊藤恩、菅芳卓（旧姓柴田）、高橋通、池田邦彦、今野弘、高須哲雄、明城照弥。

も三十人の寄稿で、第五号を百三十部発行し、東京ピンピン会を主体に配布した。六十歳台半ば、二高在学は半世紀も前のことになったが、



たった三年間のできごとが今も多く、かつ日々の生活に励ましを与えていることが読み取れる。

悲しいこともある。二人の寄稿者が八月に急逝され、遺稿となってしまった。二〇〇九年、第九号を発行する時、十一期生は卒業五十周年を迎える。出版屋も印刷屋も同期にいる。

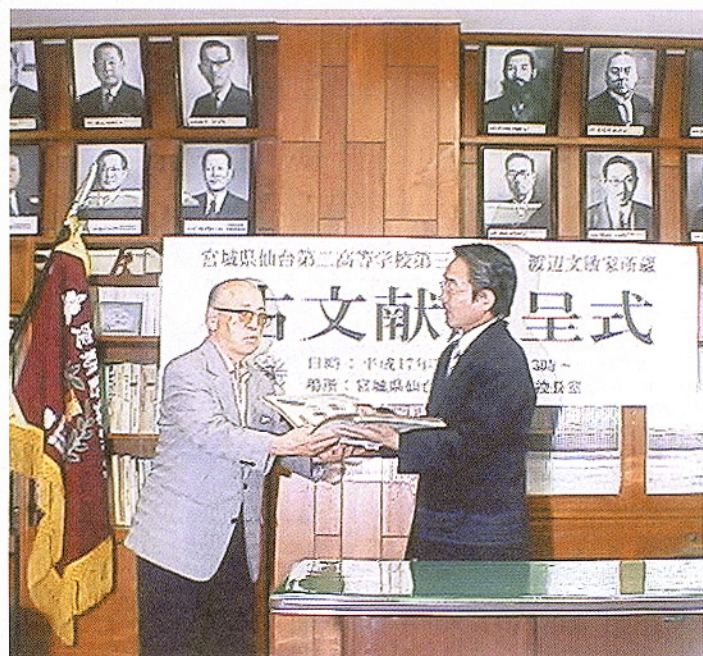
手作りではない「本」にして我々の歴史を二高の図書館に置いていただきたと思っている。編集・製本・発行の世話人はA組・白庭と古谷、B組・庄子、C組目黒と私の五人です。より多数の同期生のご協力を希望します。

会 員 短 信

家宝の庄内藩古文書を寄贈

渡辺校長家から二高図書館へ

高4回卒 千葉 英之（寄稿）
高6回卒 清野 英一（写真）



「温故知新」の精神を勉学の場に……。ブームの、藤沢周平の作品の世界を彷彿させるような、庄内藩（山形・鶴岡市）ゆかりの古文書約六十点が今夏、仙台二高図書館に寄贈された。この中には、幕末、明治維新の、日本の激動、変革の時代を垣間見ることが出来る記録、絵図類も多数含まれている。生徒たちが、日本の中世、近代史を、東北の視点から学ぶ貴重な教材になりそうだ。

贈り主は旧制仙台一中の、故渡辺文敏・第三代校長の三男、渡辺宏さん（神奈川県厚木市在住、八八歳）である。宏さんは、この会報で既報の通り、昨秋、二高同窓会挙げてのサポートにより、高齢と病を克服して、二中蔵王遭難者の慰霊登頂を果たした、その人である。父の文敏先生は遭難時（一九一八年）の校長で、その鎮魂の遺志を引き継いだ、宏さんが慰霊登頂の悲願をかなえたのだった。

渡辺家のルーツは庄内藩の藩士で、代々、藩政を記録した諸文献が、家宝として所蔵されてきた。その中から特に精選された文献が「慰霊登頂支援のお礼と、記念に」と、寄贈された。

庄内藩主は徳川家康の筆頭家臣、酒井忠次を祖とする由緒ある家柄で代々、幕府の要職に就いている。幕末に、庄内藩は、江戸の市中警備や、続々来航する異国船の防備、外国使節団の接遇などにもあたっていた。

寄贈文献の中には、江戸市中警備の四年間にわたる一部始終を記録した文書もある。また、異国船に備えて、酒田から松前まで、北上する際の各寄港地の絵図も残されている。そして、松前港に入った異国船の警備に、庄内藩が、加勢に赴いた際の船中記もあった。

て、臨場感を誘う。

嘉永年間に、ペリー率いる米国使節団が浦賀に入り、幕府に開国を迫った時に、庄内藩は、使節団の接待役を命じられている。その折の料理の献立表もあって、興味深い。

もし、異国船に不審な動きがある時には「召し捕り方、切捨て、苦しからず」といった、大目付の書状もあり、緊迫感が伝わってくる。

幕末の羽州、出羽の国（山形）全図には、七三か村と、各村の年貢と思われる石高なども、詳細に書き込まれている。

ほかに、安政大地震の折の江戸市中、武家屋敷の被害記録とか、勝海舟が伝習船に乗り込む時に、幕府に出した許可申請書の写しも目を引く。

これらの渡辺家所蔵古文書の寄贈式は七月二日に、二高校長室で行なわれた。会場のテーブルいっぱいには寄贈文献が並べられ、その全目録が、渡辺宏さんより柏葉浩明・第二十一代校長に手渡された。

宏さんは、慰霊登頂の支援に感謝した後、次のように挨拶した。「先祖代々大切に保存してきた史料を、ゆかりの深い二高図書館に納めていた

だくことができ、亡き父と母も、どんなにか安堵していることでしょう。文字が、どんどん消えて行く時代ですが、文字を読んで、古きを知り、新しい文化を育てることもできるはず。生徒の皆さんの身近に置くことによって、少しでも、お役に立つことができれば、望外の喜びです」

これに対し、柏葉校長は、いくつかの文献に目を通した感想を交えながら、謝辞を述べた。「イギリスの船が、オランダの船を追って突然、長崎港に入ってきて、幕府を驚かせたという記録もあります。また、伊能忠敬の地図が出る十四年も前に描かれた林子平の地図もあり、双方の違いを確かめることにも興味を覚えます。それに、渡辺文敏校長のおじいさんの弟さんが、西

南戦争の最中に、熊本城で討ち死にされたという、お話も重ねて、歴史のつながりの身近さを感じました。貴重な古文書を大切に保存し、生徒たちには、直接、目に触れることによって、歴史に対する感性を磨いてもらいたいと思っております」

式典には、学校、同窓会、

山岳部OB関係者のほか、遭難者遺族の代表(安積壮吉さん)も含め三十人ほどが出席し、新たな感慨にひたった。

もう一人、慰霊登頂に随伴した、新潟・柏崎高(文敏校長の前任校)の東京同窓会事務局長、松浦孝義さんも再び来仙。「新潟に関した渡辺家古文書もあり、柏崎側で頂戴して保存します。これを機会に柏崎高と二高の縁がなお深まりますように」と挨拶した。

「日本と清国との戦い」

更にロシヤとも」

中40回卒 佐久間博信

(春季号続編2)

当時、日本は古くから関係の大国、清国との関係が悪化していった。

明治四年(一八七二) 沖縄

治政の範囲外と拒絶され軍隊を派遣討伐を行った。英米両国が仲裁し、清国が償金を日本に支払った。

琉球王国(現、沖縄県)は清国の要求に屈し、朝貢を行い又日本の薩摩藩は全て幕府に専従していたが、明治政府は軍隊を派遣し王国を廃し沖縄県として直轄とした。

これらの問題から清国の感情が悪化する。明治十九年八月、清国は当時、世界最大級の鋼鉄製戦艦定遠、鎮遠等四隻の北洋艦隊を長崎に威示寄港を行った。上陸した水兵達が女性に暴行、制止した警官を殺害から衝突、多数の負傷者と民家が焼失する事件となった。長崎事件と言う。

日本、清国間の戦いは、両国幹部と国民の大部分が避けられないと思う処まで来た。清国の人口は日本の十倍以上、日本が国民皆兵の態勢をとっても軍隊の幹部の養成は日時を要する。この為、軍の幹部となる国民の教育乃ち中等学校以上の教育が急がれた。明治二十五年(一八九二)宮城県立尋常中学校(後の仙台一中、現一高)が設立された。

日本は明治二十七年・八年に

清国と戦い、忠勇なる将兵が活躍、国民の協力支援、政府の艦船、兵器弾薬の手配などで勝利を収めた。欧米諸国は人口と資源の多い清国の勝利を予想した為、多くは中立の立場をとり、戦後に清国市場の開放と産業進出を準備していた。然し、日本が勝ち欧米が考えた清国への産業進出は難しく特別の対策を進めた。

日清戦争末期、日本軍は清国首都北京に迫り、清国の敗退が確実になるにつれ、欧州の清国公使館(当時、常駐する大使館制はない)と独、露、仏、伊の四ヶ国間の往来が頻繁になった。また、清国公使館から本国宛の暗号電報が従来の数倍となった。

日本側も異常に気づいた公使館員も居り、又清国公使の動きは忠告をうけながら、戦いの勝利に酔って、更に検討調査を行わなかった。

明治二十八年四月十七日、下関春帆楼にて日清両国は講和条約を調印、国際法上は戦争中止。その代償として領土の提供他が契約された。

清国講和全権大使李鴻章は、本国と連絡、暗号電報の往復を行い、講和休戦を延引させ

た。この為に陸軍は進撃をつづけ、遂に首都北京に迫り清国政府は日本に圧力干渉を行う露、独、仏三国の合意を待てず、降伏命令を出す。日本の外務省は清国の暗号電報の解読の努力を行わず、日本が頼りとする英国の忠告にも従わなかった。

かくて、世界史上に稀な講和条約を、第三国の圧力で変更することになった。世に言う露独仏三国の干渉でしかも条約調印後である。日本が三国干渉であることを知ったのは独外務省より駐独の青木公使に講和条約調印四日後に申し入れがあり、日本に至急電を送ったのが始めてであった。大陸の陸軍は捕虜より清国が露独両国に援軍を依頼中の情報を聞き北京占領を急いでいた。然し政府は戦費の問題より認めず露国の満州進出を国際的に認めることになる。結果として露国が一兵も失わず日本を含む太平洋へ進出計画の拠点を得たのである。

日本政府は国家情報収集に語学、数学が必要であることを痛感する。また、日清戦争で軍艦船舶、列車車両、火炮など兵器製造と修理が外国人

技術者に頼って居り、早急に日本人に代える必要があった。経費と秘密保持からである。日露戦争を既に予測する時、中等学校で理数と語学、そして物理化学の教育、乃ち技術者の養成が急がれた。

明治三十三年、仙台二中の創設には、このような政府の

思いがあった。この為、大学の開校と共に、工業系専門学校の創設である。仙台一中に比し、二中が技術系に多く進んだのは、立地条件、父兄の職業、先輩の影響によると言われる。これも伝統的条件である。

(続く)

『私の一生』続編

中42回卒 真船 正夫

(春季号続編2)

二中時代、選科として柔道をやったが、ある時教師の桐原五段(息子、陸士・海兵組)に空手の型をやって見せた人がいた。私はやるならこれだ!と直感した。柔道、合気道など武道は色々あるが、

ことである。中間は省略して、何故あれほど軍人に反抗的な者が旧制大学を落第もせず有段者となり制服は性に合わぬからとは別として、元軍人を主体とする防衛庁事務官となつたのか?の疑問が残る。

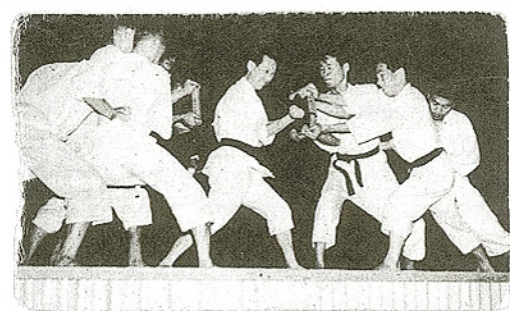
いくら相手を投げ飛ばしても致命的な打撃にはならない。己を守り、人を助けるためには相手を再び手向かえぬようにするには、素手では一番と考へ上京して修行したのは和道流の始祖大塚博紀師範だった。このことが「私の一生」を大きく変えることになる。は十七歳の少年は思っても見なかったことである。勿論、方法上のことは知っての上の

事情や理由は抜きにしてシリアンコントロールされているとはいえ、未だ陸士・陸大源田サーカスで名高い源田実空将等が陸軍、空軍等が実権を握っている防衛庁に入る事は興味深いものであった。友人の中には二尉(中尉)で入った人も相当数いた。国家公務員と同時に収入も安定した職とも言えよう。然し私は私なりに太平洋戦争で何百万

もの兵隊と先輩たちの特攻、罪のない一般国民の犠牲者を出した軍部に対する反抗心はぬぐいきれず、少なくとも空手道を通じて誠のシリアンリードがされているかどうか、それに志願制であっても昔の軍人とは違う自衛隊員になつて欲しいの望みから『私の一生』はスタートした。

それには大学・高専出だけの二千人対陸海空たった十人の採用試験に勝たなければならなかった。運とツキ決して

実力とは思わない。やがてしばらく待たされ陸士・陸大一・二番のエリート陸幕第三部に任官配属された。(昔でいう



参謀本部)(私はもとと独断専行型で両親から『お前は幼いときから人に頼らず自分で考えた通りコッコツとやる質(タチ)だしバッチ(末っ子)だから思った通りやればよい。』といわれていた)仕事はいちばんであるが、やることはやるでポスターを自分で書き、陸海空内局に空手道同好会会員募集のポスターを張り巡らした。

厚生課は二十人集まれば部として認め予算を出すと言ったが全部で五十人も集まった。厚生課は正式に同好会を空手部として認め、私が提出した要求書の通り拳を鍛える巻藁台、胴の危険を防ぐ皮の防具なども作ってくれた。本職の方は八時には出勤して各机

(当時日本製)を雑巾で拭き床も綺麗に掃除して皆さんが来るのを待つのが日課だった。

業務は省略して、下士官、若い事務官、和文タイピストの書類整理、未だコピー器がないのでガリ版書き、その印刷などその人たちの指示まともと業務見習等であった。

昼食が済むと雨の日も風の日も一日も休まずコンクリートの屋上で稽古指導に励んだ。

佐官クラスの人、内局の隊員事務官・技官など全く差別なく平等に汗を流した。このように私の思想通り常に民主自由・平等主義を通した。たちまち会員は二〇〇名となり所属する班長は色々の便宜を計るやら、内局の部員との交渉にあてるやらして段々と本分とするものに近づくようになってきた。給料は安い石の上にも三年の諺のとおり意外にも元軍人達は使い方は荒いが面倒見は良く、そのためかマアアの事務官となった。それでも私は元軍人将校達への対抗意識は変らなかつた。好きこそものの道理なので全国の自衛隊員の中には私のような「カラキチ」がきつといると確信。全自衛隊空手道連盟創設実現が目の前に来ていることを知ったのである。

約二十万の自衛隊員を引張るには一事務官では通らない。庁内の真の実力者を会長にするしかないと考え、当時の防衛局長に当たって砕けよと趣旨説明を行った。黙って聞いていたが局長は話は分かった。連盟会長は引き受けた。ただ、おれは東大ラグビー部だったから空手のことは知らない。

連盟運営の一切は君に任せる君が事務局長になり、真船君が考えた通りやりなさいといわれた。『人生意気に感ず』

とはこのことと分かった。この局長は間もなく官房長となり最高のシビリアン実力者事務次官となった。(続く)

「東北の豊かさ」について

高26回卒 佐藤 健二
(旧姓・貝山)



「かさ」に係る見事な持論を展開された。

冒頭から唐突な題で書き始めてしまったが、これには訳がある。今から七年前から二年間に亘り、当時、勤務していたシンクタンクの記念事業として、「東北の豊かさに関する調査」という研究の事務局を務めた。調査にあたり、有識者からなる委員会を設けたが、仙台市在住の民俗研究家・結城登美雄氏を委員の一人として委嘱した。調査報告書の中で、結城氏は、フィードバックを通じた農山漁村に暮らす人々の観点から、経済性、効率性とは違う「別のモノサシ」から、「東北の豊

同窓会会則の改正について

会則改正委員長 高2回卒 朝倉 亮

1. 平成十二年創立百周年行事後、従来の同窓会の在り方について種々の論議が行われるようになった。同窓会の会則についても昨十六年七月の総会において十七年度の総会に向け会則改正案を準備するよう議決された。

その結果、今年平成十七年五月二十四日、出席委員全員の賛成のもと、「仙台第二高等学校同窓会会則改正案」を纏め上げることが出来た。

③ 役員任期
従来の会則では役員の再任活動は活性化される。

2. 会則改正委員会の発足と審議経過
① 上記十六年総会の議決を受けて、西澤同窓会会長から委嘱を受けた委員は全員自薦の熱意ある次の十一名である。

② 改正の要点
① 意思決定の仕組み
従来の会則では同窓会の意志決定(審議・議決)の仕組みが不明確であった。

④ 具体的新設、改正される条項について
審議する紙面はないが、各改正委員および全同窓会員とともに今後の同窓会運営とその軌道の行方を見守りたい。現在、仙台二高は厳しい課題に直面している。

② 第一回会合は平成十六年十一月十七日開かれ、以後約七ヶ月にわたり同窓会各副会長も交え、計8回の審議を重ねた。審議では他高等学校等の資料なども取り寄せ、現行会

③ 役員の任期
従来の会則では役員の再任回数に無期限としてあった。今回の改正では会長、評議員、常任委員を除いて役員の任期は原則として二年、再任は最長でも六年と限定した。

④ 具体的新設、改正される条項について
審議する紙面はないが、各改正委員および全同窓会員とともに今後の同窓会運営とその軌道の行方を見守りたい。現在、仙台二高は厳しい課題に直面している。

宮城県仙台第二高等学校

同窓会会則

平成十七年七月二日改正

- 第1条 (名称)
本会は宮城県仙台第二高等学校同窓会と称する。
- 第2条 (事務局)
本会の事務局を母校内に置く。
- 第3条 (目的)
本会は会員相互の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 (会員資格)
本会は会員及び客員をもってこれを組織する。
(支部の設置)
会員多数居住する地方及び団体には支部を設けることができる。
- 第5条
但し支部を設けたときは直ちに報告するものとする。
- 第6条 (事業)
本会はその目的を達成するため次の事業を行う。
1 会報及び会員名簿の発行
2 母校の事業に対する後援
3 講演会及び懇親会等の開催
4 その他本会の目的達成に必要な事項
- 第7条 (総会)
1 総会は毎年一回開催する。
2 必要に応じて臨時総会を開催する。
3 総会は会長が招集し主催する。
4 総会の役割は次のとおりとする。
(1) 会務の報告及び予算と決算の承認
(2) 議決には出席者の過半数の賛意を要する。
(3) 議決については以下各条項とも同じ。
(4) 不承認となった場合は、再度評議員会において審議し決定する。
- 第8条 (役員)
1 本会に次の役員を置く。
1 会長
(1) 会長は会員中より、評議員会の推薦により総会で選出する。
(2) 会長は会を代表し、会務を統括する。
2 副会長 三名
(1) 会長はあらかじめ理事の中から副会長三名を指名し、業務の一部を代理させることができる。
3 理事 若干名
(1) 理事は評議員会において選出し総会の承認を要する。
- 第9条 (理事会)
1 理事会は会務執行機関として理事会を置く。
2 理事会は会長、副会長、理事、及び会計理事によって構成する。
3 理事会は会長が招集し主催する。
4 理事会は会則及び総会の決定事項に従って、事業計画及び予算を作成する。
5 理事会は事業計画及び予算を評議員会に提出し、その議決を得た後総会に提出し承認を得る。
6 他に実施すべき事項についても同様とする。
7 理事会は事業及び予算の実施状況を評議員会に報告し、その審議を得た後総会に報告する。
- 第10条 (評議員会)
1 本会に審議機関として評議員会を置く。
2 評議員は会長が招集する。
3 評議員は評議員の互選によって決める。
4 評議員は評議員が提出した議案を審議議決する。
5 評議員会は評議員が提出した議案を審議議決する。
- 第11条 (任期)
1 役員(会長、評議員、常任委員を除く)の任期は二年とし、三期を限度とする。
2 退任後一年を経過した後の再任は妨げない。
(会長、副会長、顧問、参事)
3 本会に名誉会長、顧問及び参事を置くことができる。
4 名誉会長は総会に諮って会長これを推薦する。
5 顧問、参事は総会に諮って会長これを委嘱する。
6 顧問、参事は会長の諮問に應ずる。
- 第12条 (経費)
1 本会の経費は次の収入で賄う。
2 会費 会員一人につき毎年 三〇〇〇円
3 入会金 在校生は卒業時に同窓会入会金として三六〇〇円を納入するものとする。
4 寄付金その他
(会計年度)
5 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。
- 第13条 (帳簿)
1 本会には次の帳簿を備えなければならない。
2 1 会員名簿
3 2 会計簿
4 3 資産負債帳
5 4 会務録
(会則改正)
6 会則の改正は評議員会の三分の二の多数で決議し、総会の承認を要する。
- 第14条
この会則(平成十七年七月二日改正)は平成十七年七月より必要な事項から逐次施行し、平成十七年九月十五日までに完了する。
- 第15条
会則(平成十七年七月二日改正)施行に伴う細則については別途定める。
- 第16条
会則(平成十七年七月二日改正)の具体的経過措置については次のとおりとする。
1 各回期常任委員名の確認を行い、それに基づいてすみやかに評議員の選出を行う。
2 評議員会は現会長の前任及び校内幹事・事務局長を確認する。
3 評議員会は理事、会計理事、会計監事を選出する。
4 但し、現副会長及び現会計監事三名はそれぞれ新会則の理事及び会計監事となり、新しい任期については就任二年目と見做すものとする。

同窓会総会報告

去る平成十七年七月二日

仙台ホテルを会場にして恒例の同窓会総会が百四十一名の参加のもと、盛大に開催された。式次第は次の通りである。

○同窓会総会

(十七時～3F 宴会の間)

①開会の辞

②挨拶

同窓会会長 西澤 潤一

学校長 柏葉 浩明

③来賓紹介・来賓代表挨拶

県知事 浅野 史郎

④叙勲者紹介

旭日小綬章

安田 恒人 (中45回)

瑞宝小綬章

佐川 徳雄 (中47回)

瑞宝小綬章

千葉 映史 (高5回)

旭日双光章

森田寛二郎 (高1回)

瑞宝双光章

菊地 新一 (高5回)

⑤議長選出

⑥協議

第一号議案

平成十六年度 事業報告

第二号議案

平成十六年度 決算報告

(1) 一般会計

(2) 特別会計

(3) 監査報告

第三号議案

平成十七年度 事業案

第四号議案

平成十七年度 予算案

第五号議案

会則改正案の承認

※以上全議案について、原案通り承認された。

⑦報告

(1) 共学問題の経過

(2) 北陵館の使用状況



西澤同窓会長の挨拶

去る平成十七年九月十五日、日仙台二高北陵館に於いて、第一回評議員会が開催された。評議員会は、総会で承認された新会則に基づく審議・議決機関で各回期の常任委員の代表である評議員

⑧閉会の辞

○同窓会懇親会

(十八時～3F 青葉の間)

①開会の辞

同窓会副会長 高橋 正道

②校歌斉唱

③当番幹事代表挨拶

中川 寿郎 (高16回)

④乾杯

同窓会副会長 笹氣 光祐

⑤アトラクション

尺八 松田 惺山

⑥応援歌斉唱

⑦万歳三唱

同窓会副会長 志賀 従興

⑧閉会の辞

永見 幸久 (高29回)

第一回評議員会 報告

によって構成される。第一回の議題は次の通りで、活発な審議がなされた。

①開会の辞

②挨拶

同窓会副会長 高橋 正道

③議長選出

④協議

第一号議案

現会長の留任

第二号議案

事務局長及び

校内幹事の確認

第三号議案

理事の選出及び

会計監事の確認

(1) 理事の選出

※新会則の具体的経過措置に基づき現副会長五名が理事に選出される。

(2) 会計理事の選出

※現会計担当が会計理事に選出される。

(3) 会計監事の確認

※新会則の具体的経過措置に基づき現監事三名が会計監事に選出される。

⑤報告

(1) 共学化問題の経過

(2) その他

⑥閉会の辞

寄贈図書 (同窓生より)

二〇〇四年十一月から

シリコン樹脂

(中35回) 鹿目 彰殿

むかしの写真集 岡上

(高9回) 千葉 規殿

(高19回) 森 精一殿

井上成美

(中43回) 森 健殿

詞苑間歩

(中40回) 山田 俊雄殿

武人万葉集

(中43回) 山口 志郎殿

あなたのたいせつなものは

なんですか? ...カンボジアより

(高36回) 山本 敏晴殿

中世の小野寺氏

—その伝承と歴史—

(中40回) 小野寺 宏殿

法帖事典

他 書道関係書籍 計46冊

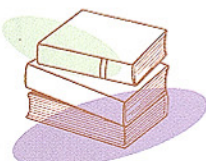
(高27回) 内田 正之殿

私の座右の銘 他 計68冊

(高8回) 長谷 浩明殿

どうもありがとうございま

した。



河合先生の胸像が取り持つ縁

仙台二高 教頭 渡辺 尚人（高26回）

初夏を感じさせる日差しが

眩しい五月の屋下がり、私は事務室を出て二階の職員室へ向かうとしていた。一階の吹き抜けを階段に向かう途中、玄関外のロータリーに何気なく目をやると、品の良い婦人が数人、河合先生の胸像を見上げながら話をしている姿が目に入った。なぜか気を引かれた私は、立ち止まって様子を眺めていた。ロータリーの周囲には和やかな空気が流れていることが遠目にも読み取れたが、四人の婦人が単なる観光客なのか、二高に縁のある方々なのかは判然としなかった。

仙台二高は来客が多い学校である。美術館と間違えて二高の校門をくぐる方がいたり、校門付近で記念写真を撮ったりする方がいたり、南校地の歩道で二高の校舎の絵を描かれる方がいたりする。それは同窓生だったり、子供や孫が二高を卒業した方だったり、他県の方だったり様々である。様々ではあるが、その多くは

二高に何らかの縁がある方だ。再び外に目を転じると、六〇代と思われる四人の婦人は相変わらず話を続けている。その明るく落ち着いた様子に惹かれるように、私は外靴に履き替えて玄関を出た。

「お話中に大変失礼ですが、身内の方が二高をご卒業されたのでしょうか」

「いいえ、私たちは四人とも河合の孫です」

思いもかけない返答に四人のお顔を見比べると、どこかしら共通した、知的でおだやかな雰囲気漂っている。

「もし、お時間が許せば校長室へ」とご案内し、校長と私とが加わり、六人で数十分ほどの歓談の時間を持つことができた。

「小さい頃、二高の庭を遊び場にしていたのですよ」

そう切り出されて始まった話は、白雲崖の桜や校庭北側の太い松の木へと話題を変え、やがて河合先生の胸像のエピソードへと移っていった。『仙

台二中二高百年史』によれば、河合先生の胸像は「河合絹吉先生還暦記念会」の記念行事の一環として、昭和十一（一九三六）年に建立された。ところが昭和十八（一九四三）年、胸像は戦時中に金属回収のため供出となり、戦後の昭和三十八（一九六三）年になって再建されて除幕式が行われ、現在に至っている。つまり、今ある河合先生の胸像は二代目なのである。

「二代目の胸像は緑青で緑色になったことがあったわね」

「今の胸像は前のとは、ちょっと雰囲気違っていろいろのよ」

「そう、そう」

合の手が入り、話は盛り上がりつついく。

「そういうえ、河合の娘婿も教頭として二高に勤務したのですよ」

創立百周年記念の同窓会名簿に「教頭」の記載はないが、昭和十二年から二十三年までお勤めになられ、転出時には教頭として勤務されていた福

永和利先生（後に新制仙仙沼高等学校校長）のことである。

「縁がありますね」と返すと、四人の婦人は一斉に頷かれた。

今は全員が関西在住で、「引っ越してから半世紀ほど、仙台とは縁がありませんでした」と話される。ところが、小学校の同窓会が定期的に仙台で開かれるようになり、それに参加するために何年かに一回仙台を訪れることになった。今年はずうとその年にあたり、「それならば」ということで今回の二高訪問となったのだという。

この日はすでに校庭の周囲を一周され、若葉の香りと広瀬川北側の風景を十分に楽しまれたらしい。

心温まる縁を感じた午後の数十分、お帰りになる際に校長から『仙台二中二高百年史』をお渡しした。

その日から一ヶ月も経たない頃、中30回のFさんが二高を訪れた。卒業してから仙台を離れ、半世紀をはるかに過ぎて二高を訪ねたのだという。

事務室から突然の来訪を聞いた私は、二階の職員室から玄関に駆けつけ、Fさんにお会いした。卒業年度が間違いないかと思うほどお元気で、在学当時のことを話される。

ロータリーにある河合先生

の胸像を指さしながら、「河合校長が川内に校舎を移転した時に在学していました」とおっしゃる。

「もし、よろしければ校舎内をご案内します」とお誘いすると、Fさんは、「お願いします」と首を縦に振られた。二高にエレベーターはない。したがって校舎内を見学する時には、一階から三階まで、自分の足で歩いて回らなければならない。Fさんはそれを苦にしない様子もなく、当時の思い出を語りながら北校舎三階に上っていく。

北校舎からグラウンドをしばらく眺めていたFさんは、「あの頃の雰囲気が残っています」と言って、持参していた最新のデジタルカメラで校庭の写真を数枚撮った。校庭では、硬式野球部、軟式野球部、サッカー部、ハンドボール部、ラグビー部の部員たちが高校総体に向けて練習しており、かけ声が校舎三階まで聞こえてきた。

十数分ほどだろうか、校舎内を一通り案内して玄関までお送りすると、Fさんは丁寧に礼を言ってお別れを出ていった。その後ろ姿を見送った私

は、

は、

は、

は、

現役生徒の活躍

が事務室に戻って外を眺める
と、静かに校門に向かう白い

車が目に入った。
運転席ではFさんが背筋を

伸ばし、颯爽とハンドルを握っ
ていた。

〈引退して〉

鈴木 淳

弓道は精神的にも肉体的にも意外としんどいスポーツである。ほとんどの人はこの事実を知らないだろう。入部当初の自分もそのうちの一人だった。中途半端な気持ちで入部したがために、面倒なことや辛いことに直面して挫折しうになったこともある。ただ、今振り返って見ると、不思議なことには全部楽しかった思い出に変わっている。

れたのも部員みんなが支えてくれたからだ。本当に感謝している。

た先生方にも感謝したい。特に渡辺先生と川名先生には大変お世話になった。本当にありがとうございました。そしてこれからも弓道部をよろしくお願いします。

二年半の部活動を通して様々なものを得たと思う。大会でそれなりの結果を残すこともできたし、県内外の多くの人と交流することもできた。無気力だった自分も少しの勇氣と自信と積極性を手に入れたと思う。そしてなにより、すばらしい仲間ができた。自分が最後までやってこ

最後の一年になってしまっ
たが、いつも弓道部を応援し支えて下さっ



部 活 動 の 成 果 運 動 部 成 績

大会名 部 名	平成16年度		平成17年度		大会名 部 名	平成16年度		平成17年度	
	新 人 大 会	定期戦	総 合 体 育 大 会			新 人 大 会	定期戦	総 合 体 育 大 会	
硬 式 野 球 部	秋季県大会 1回戦 仙台二 2-5 利府	勝ち 2勝0敗 仙台二 仙台一 13-8 8-4	春季県大会 1回戦 仙台二 5-3 宮農 2回戦 仙台二 4-3 大崎中央 準々決勝 仙台二 6-15 仙台東 選手権宮城大会 2回戦 仙台二 3-4 仙工		水 泳 部	100m 自由形 佐藤 博基 8位 400m 自由形 豊川 航 7位 100m 平泳ぎ 藤倉 直己 1位 200m バタフライ 高橋貴正 8位 総合成績 第5位 (総合得点55点)	50m 自由形 横田 敦史 5位 東北大会出場 100m 自由形 佐藤 博基 4位 東北大会出場 横田 敦史 7位 東北大会出場 202m 個人メドレー 早坂 一希 3位 東北大会出場 400m 個人メドレー 早坂 一希 6位 東北大会出場 総合成績 第3位 (総合得点73点)		
	軟 式 野 球 部	1回戦 仙台二 14-0 明成 5回コールド 2回戦 仙台二 6-2 石巻商業 準決勝 仙台二 0-7 東北学院	勝ち 仙台二 仙台一 4-1	1回戦 仙台二 3-1 仙台育英 2回戦 仙台二 5-1 仙台商業 準決勝 仙台二 8-9 石巻 (延長10回)		東北新人大会 400mR (横田・平澤・豊川・佐藤) 7位 100m 平泳ぎ 藤倉 直己 6位	県新人水球大会 仙台二 対 茨田 優勝		
陸 上 競 技 部	1500M 増田 政彦 16位 800M 高野 捷一 準決勝敗退		1100M 一ノ倉 聖 準決勝敗退 4×100MR (小林・松浦・堀・濱田) 準決勝敗退						
水 泳 部	県新人大会 400mR (横田・平澤・遠藤・佐藤) 2位 東北大会出場 800mR (横田・早坂・足立・佐藤) 4位 400mMR (平澤・藤倉・佐藤・横田) 5位 50m 自由形 平澤 啓 3位 東北大会出場 佐藤 博基 4位 東北大会出場		県総体 400mR (横田・平澤・足立・佐藤) 1位 東北大会出場 800mR (横田・早坂・足立・佐藤) 2位 東北大会出場 400mMR (早坂・藤倉・佐藤・平澤) 5位 東北大会出場 50m 自由形 平澤 啓 1位 東北大会出場 佐藤 博基 4位 東北大会出場						

部 活 動 の 成 果

運 動 部 成 績

大会 部 名	平成16年度		平成17年度		大会 部 名	平成16年度		平成17年度	
	新 人 大 会	定期戦	新 人 大 会	定期戦		新 人 大 会	定期戦	新 人 大 会	定期戦
サッカー部	仙台地区予選 仙台二1-0 泉館山 仙台二4-1 東北朝鮮 仙台二1-0 富谷 ※ブロック1位で県大会出場 県大会 仙台二1-0 白石 仙台二1-1 聖和 PK 3-4 ※以上によりベスト16		仙台地区予選 仙台二1-1 富谷 仙台二1-1 仙台南 仙台二1-2 東北工大 仙台二1-3 学院桜ヶ岡 ※地区予選敗退		県大会 団体(5人立ち) Aチーム (金子・長島・鈴木・宮本・安藤・堀江・佐藤) 予選 40射25中 準々決勝 20射12中 準決勝 20射12中 4チームによる決勝リーグ戦 ○仙台二A15-14東北学院A ×仙台二A14-16泉A ○仙台二A10-9名取北B 2勝1敗で第2位 Bチーム (須山・菊池・宮本・小野・横田・北原・富田) 予選40射16中で予選敗退 個人 2年 金子 詳平 予選8射6中で通過 決勝でも通過 第4位 東北選抜大会(仙台 1月) 1チーム(3人立ち) (金子・長島・安藤・鈴木) 36射20中で県高校に惜敗、 全国選抜出場を逃す		県大会 団体(5人立ち) Aチーム (金子・長島・鈴木・宮本・安藤・堀江・富田) 予選 40射30中 準々決勝 20射16中 準決勝 20射12中 4チームによる決勝リーグ戦 ○仙台二A17-15角田A ○仙台二A14-12泉A ○仙台二A17-13利府A 3戦全勝で優勝 射道第2位優秀賞 Bチーム (須山・大沢・宮本・小野・土屋・佐藤) 予選 40射25中 準々決勝 20射10中 準決勝 20射9中 個人 3年 安藤 優勝(16射16中) 射道第1位最優秀賞 3年 宮本 1位(16射14中) 3年 堀江 18位タイ(12射9中) 3年 鈴木 18位タイ(12射9中) 3年 長島 30位タイ(12射7中)		
ラグビー部	1回戦 仙台二5(0-15)22佐沼 0-15 5-7	例年同様元旦に仙台一高グラウンドにて開催する予定です。ぜひおいで下さい。	1回戦 仙台二18(11-0)5多賀城 11-0 17-5 2回戦 仙台二5(0-19)36気仙沼 0-19 5-17 向洋		弓道部	5/16(初)ともに3チームで対戦。 計9試合行い、5勝3敗1引き分けで勝利		東北大会 団体(5人立ち) (金子・長島・鈴木・宮本・安藤・堀江・富田) 予選40射25中敗退 個人 3年 安藤 8射5中 予選敗退 インターハイ(千葉県 8月) 団体5人立ち (金子・長島・鈴木・宮本・安藤・大沢) 予選20射15中 7位通過 決勝トーナメント(32校) 1回戦 対聖崎(山梨)14-15で惜敗 ※聖崎は、この後全勝し、全国優勝 個人 3年 安藤 予選8射8中で通過 決勝射法 1射目○ 2射目× にて敗退 96人参加19位タイ	
ハンドボール部	1回戦 仙台二24-15泉松陵 2回戦 仙台二16-8 佐沼 準々決勝 仙台二15-16仙台三 ※県ベスト8		1回戦 仙台二14-21仙台三		柔道部	団体戦 予選リーグ 仙台二2-3 仙台一 仙台二1-2 白石 予選敗退 個人戦 中村達太郎 予選敗退 渡部 大樹 ベスト8 木田 武宏 予選敗退 大嶋 優輔 ベスト8	2人残勝ち	団体戦 予選リーグ 仙台二2-1 古川 仙台二1-3 柴田 団体戦 決勝トーナメント 1回戦 仙台二1-2 小生田農林 個人戦 60kg 中村達太郎 決勝トーナメント1回戦 65kg 松本 悠 65kg 渡部 大樹 73kg 木田 武宏 90kg 大嶋 優輔 ベスト8	
バスケットボール部	仙塩地区予選 仙台二97-56塩釜 " 90-68東北工大 " 38-77宮城広瀬 " 75-60聖和学園 " 54-81東北学院 " 60-67利府 " 60-74仙台 " 76-81宮城広瀬 地区4位で県大会出場 県大会 2回戦 仙台二87-65石巻商業 3回戦 " 54-53聖和学園 準々決勝 " 77-59石巻 準決勝 " 35-75仙台 第3位	勝ち 82-48 通算成績 20勝26敗	2回戦 仙台二98-59仙台西 3回戦 " 105-50登米 準々決勝 " 76-74佐沼 準決勝 " 64-82仙台 第3位		剣道部	団体予選リーグ 仙台二 - 宮城水産 不戦勝 仙台二4-1 仙東 同 決勝トーナメント 仙台二3-1 仙南 仙台二0-3 仙台育英 個人トーナメント1回戦 宮崎(仙台二)○×伊藤(角田) 品山(仙台二)×○白岩(清谷) 同 2回戦 宮崎(仙台二)○×佐藤(小生田) 同 3回戦 宮崎(仙台二)○×佐藤(岩田山) 同 4回戦 宮崎(仙台二)○×市場(大河原商) 同 5回戦 宮崎(仙台二)○×土岐(仙台南) 準々決勝 宮崎(仙台二)×○前田(泉松陵) ベスト8		団体予選リーグ 仙台二2-2 利府 仙台二3-2 向山 同 決勝トーナメント 仙台二0-5 仙台育英 個人 宮崎(仙台二)0-2 宮城(仙三) 米(仙台二)0-1 斎藤(東陵)	
バレーボール部	2回戦 仙台二2-0 亘理 3回戦 仙台二0-2 塩釜	勝ち 3-0 通算成績 27勝28敗	2回戦 仙台二2-0 名取 3回戦 仙台二0-2 白石工		フェンシング部	団体戦 仙台二5-3 東北工大 仙台二2-5 仙台三		団体3位 仙台二5-4 仙台三 仙台二1-5 仙台南 仙台二2-5 東北工大 個人 エベ 折笠 達郎 準決勝プール進出	
テニス部	団体 ベスト8 個人 和泉 公太 ベスト4		団体 準優勝(東北大会出場) シングルス 和泉 公太 ベスト4 宮澤 健光 ベスト8		山岳部	部員不足で運営委員として参加。		部員不足で運営委員として参加。	
ソフトテニス部	団体戦 1回戦 仙台二2-0 気仙沼西 2回戦 仙台二2-0 多賀城 3回戦 仙台二0-2 仙台商業 ベスト16 個人戦 1回戦 高橋誠・小泉4-0 古川 高橋誠・安松4-2 築館 小山・後藤 2-4 白石工 阿部・菅原4-3 築館 2回戦 高橋誠・小泉3-4 佐沼 高橋誠・安松3-4 仙台商業 阿部・菅原0-4 白石工	1位 三高 2位 三高 3位 一高	団体戦 1回戦 仙台二2-0 工大高 2回戦 仙台二2-1 泉松陵 3回戦 仙台二0-2 仙台東 個人戦 1回戦 高橋誠・安松4-1 東北 鈴木・佐藤 3-4 向山 2回戦 高橋誠・小泉4-0 名取 高橋誠・安松 2-4 白石工 3回戦 高橋誠・小泉0-4 仙台商業		スキー部	ジャイアントスラローム 17位 佐々木賢二 18位 大沼 佑也			
卓球部	団体戦 2回戦 仙台二3-0 河南 3回戦 仙台二0-3 仙台育英 ダブルス 1回戦 星野(仙台二)0-3 原田(多賀城) 若井 シングルス 1回戦 中里(仙台二)0-3 三浦(宮崎) 2回戦 星野(仙台二)3-0 佐藤(名取北) 若井(仙台二)0-3 須藤(登米) 中村(仙台二)0-3 小野寺(気仙沼) 3回戦 星野(仙台二)3-0 千葉(名取) 4回戦 星野(仙台二)0-3 足利(仙台南)		団体戦 1回戦 仙台二3-0 向山 2回戦 仙台二3-2 東北 3回戦 仙台二0-3 宮工 シングルス 1回戦 中野(仙台二)0-3 渡辺(古川学院) 栗原(仙台二)3-2 佐々木(志津川) 星野(仙台二)3-0 吉田(気仙沼) 2回戦 栗原(仙台二)0-3 星野(栗原) 星野(仙台二)3-1 橋山(角田) 3回戦 星野(仙台二)0-3 遠藤(仙台南)		ヨット部	強風のため中止		高城・北條組(渡部乗換)5位 小笠原・加藤組(伊藤乗換)7位 共に東北大会出場	
バドミントン部	団体 1回戦 仙台二3-0 志津川 2回戦 仙台二2-3 柴田農林		団体 仙台二2-3 東北学院						

部 活 動 の 成 果

学 芸 部 成 績 (平成17年11月まで)

部 名	成 績	部 名	成 績
写 真 部	第4回高等学校夏季写真コンテスト (7.18 於白石工高) 優秀賞「夜の足並み」 2年8組 佐々木 謙 審査員特別賞「すれちがい」 “ 審査員特別賞「Show Window」 “ 第29回全国高等学校総合文化祭青森大会写真部門 参加(7.27～7.31 於むつ市) 「ラッシュアワー」 3年8組 野村 晋一 「街角」 2年8組 佐々木 謙 第2回可部線文芸賞・写真賞 銀賞(学生部門1位) 3年5組 高野 泰志	英 語 部	8/19(金) 第5回宮城スキット甲子園 優勝 県知事賞受賞 9/1(木) 北陵祭でスキット2作品発表 7/17(日) 第39回宮城県高等学校国際教育研修会 に参加 10/7(金)～10/10(月) 中・高生対象英語集中講座 に参加 11/4(金) 第52回宮城県高等学校英作文コンクール に参加
物 理 部	第58回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 「力学による『綱引き』の解析」 「ドップラー効果のシミュレーション」 「ノイズキャンセルと Active Noise Control Technique」	吹 奏 楽 部	アンサンブルコンテスト青葉支部予選 クラリネット四重奏 金賞 サキソフォン四重奏 銀賞 木管五重奏 銅賞 金管七重奏 銅賞 フルート三重奏 銅賞 東北吹奏楽の日演奏会(仙台高校と合同演奏) 宮城県管打楽器ソロコンテスト クラリネット 太齋 慧(3-2) 金賞 第18回定期演奏会開催(7/2 仙台市民会館) 全日本吹奏楽コンクール第48回宮城県大会 仙台青葉・泉地区予選 大編成の部 銀賞 同第48回宮城県大会 大編成の部 銅賞
化 学 部	第58回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「光触媒(酸化チタン)を用いた 脱色・分解反応」 榎本 翔太、藤田 成樹、大嶋 一生 優秀賞「浸透圧の研究」 佐藤 克典、木村 翔太、櫻井 和嘉 優秀賞「様々な振動反応」 今野晋太郎、櫻井 明徳	合 唱 部	宮城県高等学校総合体育大会 総合開会式合唱隊へ参加
生 物 部	第58回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「川の自然浄化モデルと 簡易水質分析法の精度を高める工夫」 2年3組 阿部 哲也・2年4組 横 潤弥 (共同研究者 2年3組 千葉 圭悟・2年5組 大竹 祐亮・2年8組 萩原龍太郎・1年6組 渡辺 統)	囲 碁 部	第29回全国高校囲碁選手権宮城県大会(6.24～26) 団体 3位(門脇 主将、権 宅炫、永野 雄太) 個人 C組1位(権 宅炫)、2位(門脇 主将) 第6回宮城県高等学校囲碁九路盤大会 男子個人B 第2位(鹿野裕太郎) 第6位(権 宅炫)
地 学 部	南三陸(大船渡、室根、唐桑、歌津) 夏季巡検調査合宿(8月1日～3日) 第58回宮城県高等学校生徒理科研究発表会 優秀賞「スプライト観測について」 佐々木 沢・菊地 喜貴・高井 拓実 優秀賞「流星群による地球の公転速度の検証」 千葉 義之・竹内 悠祐 優秀賞「宮城県周辺での化石発掘の結果」 佐藤 文洋・加藤 大和・中原 洋輔 優秀賞「竜巻のモデル実験と発生要素に関する研究」 厨川 知彦・根東 明広・池田 翔	将 棋 部	第41回全国高等学校将棋選手権県予選大会 A組 準優勝 佐々木祐一郎 第18回全国高等学校将棋竜王戦県予選大会 A組 準優勝 佐々木祐一郎 3 位 太田 恭志 B組 優 勝 秦 俊樹 3 位 小野寺 聡 第22回宮城県高等学校将棋新人戦 A組 優 勝 佐々木祐一郎 (全国大会・東北大会出場)
		ギター部	第11回宮城県高校対抗バンド合戦、奨励賞
		美 術 部	仙台市内高校美術展 優秀賞 3年6組 樋口 裕二

事務局だより

事務局を担当して目まぐるしく二年が過ぎよう

秋の叙勲受賞者

- ・旭日双光賞 中45 安藤 祐介
- ・瑞宝双光賞 中46 星 敏彦
- ・瑞宝小綬賞 高1 新実 茂夫
- ・瑞宝小綬賞 高3 三瓶 一雄
- ・黄綬褒賞 高4 天江徳五郎
- ・旭日中綬賞 高6 三島 卓郎
- ・藍綬褒賞 高15 佐々木両道

PTA同窓会合同新年懇親会開催のお知らせ

平成18年の「PTA同窓会合同新年懇親会」は、以下の日程で開催されます。多くの皆様のご出席をお願いいたします。

日時：平成18年1月13日(金) 18時20分～
会場：仙台ホテル 3F「青葉の間」
仙台市青葉区中央1-10-25
TEL 022-225-5171

会費：5,000円

出席を希望される方は、はがき、またはFAXで同窓会事務局までご連絡ください。

FAX 022-221-5686
TEL 022-221-5626
同窓会事務局長 戸田 慶三

としていますが、本年度は昨年度からの会則改正委員の皆様方のご尽力により、仙台二高同窓会の新会則が総会で承認され制定されるという画期的な年となりました。今後は各回を代表する評議員が、提出された案件を評議員会において審議・議決し、より民主的な会の運営の舵取り役を担っていくことになるわけです。会員皆様のご意見やご提案を当該回期の評議員または常任委員にお届けしていただければ幸いです。今後とも一層のご理解とご協力を切にお願いする次第です。

計 報

計報																																																																																																																																
7年	4/24	石川	清元殿	高3回	13年	2/8	松本	正周殿	高7回	14年	11/19	福田	幸作殿	中34回	15年	2/13	角野	浩一殿	中40回	2/19	安藤	広幸殿	高21回	4/9	八木	辰夫殿	中42回	4/16	横塚	卿殿	高5回	6/21	土居	時和殿	中41回	7/11	井上	可高殿	高3回	16年	1/7	池田	直正殿	高20回	1/29	大友	正殿	中42回	3/6	鈴木	泰三殿	中37回	4/30	村岡	健治殿	高31回	6/6	高橋	晋策殿	中40回	6/14	岡村	嘉仁殿	高19回	6/28	宮沢	憲男殿	高5回	7/31	早坂	光雄殿	中39回	8/18	長峰忠治郎殿	中44回	8/30	山森	正彦殿	中40回	9/8	加藤	道夫殿	中30回	9/26	松本	進殿	中30回	10/5	遠藤	繁夫殿	高1回	11/22	桜田	幹郎殿	高3回	11/23	小野	恵一殿	高21回																													
17年	1/10	草苺	清殿	中47回	1/17	山田	良助殿	高2回	1/25	山本修之助殿	中30回	2/5	桜井	幸勇殿	中38回	2/21	曾根	哲夫殿	高8回	2/27	斎藤	純一殿	中47回	3/6	石川清二郎殿	中40回	3/8	秋葉	均殿	高39回	3/10	菅原	健治殿	中33回	3/10	菅	実殿	中35回	3/12	小田原正三郎殿	中40回	4/9	岩沢	駿二殿	中42回	4/13	谷	正之介殿	中40回	4/24	牧	達也殿	高2回	4/24	小野寺俊彦殿	高12回	4/30	松会	竜士殿	高7回	5/23	早坂	弘治殿	高23回	5/24	太田	慎一殿	高4回	6/4	長瀬	辰夫殿	中47回	6/5	亀井	悦也殿	中46回	6/5	大久保	清殿	高7回	6/26	齊藤	昌敏殿	高7回	7/16	山田	俊雄殿	中40回	7/6	渡辺	悦朗殿	中40回	8/1	今庭	哲雄殿	中33回	8/2	菊地	新一殿	高5回	8/8	小松	龍彦殿	高11回	8/20	赤木	聡殿	高4回	8/22	和田	義郎殿	高7回																
11/27	高橋	義彦殿	高7回	12/3	長宗	寛殿	中40回	12/17	吉田	振治殿	中47回	12/	泉	漆殿	中31回	17年	1/10	草苺	清殿	中47回	1/17	山田	良助殿	高2回	1/25	山本修之助殿	中30回	2/5	桜井	幸勇殿	中38回	2/21	曾根	哲夫殿	高8回	2/27	斎藤	純一殿	中47回	3/6	石川清二郎殿	中40回	3/8	秋葉	均殿	高39回	3/10	菅原	健治殿	中33回	3/10	菅	実殿	中35回	3/12	小田原正三郎殿	中40回	4/9	岩沢	駿二殿	中42回	4/13	谷	正之介殿	中40回	4/24	牧	達也殿	高2回	4/24	小野寺俊彦殿	高12回	4/30	松会	竜士殿	高7回	5/23	早坂	弘治殿	高23回	5/24	太田	慎一殿	高4回	6/4	長瀬	辰夫殿	中47回	6/5	亀井	悦也殿	中46回	6/5	大久保	清殿	高7回	6/26	齊藤	昌敏殿	高7回	7/16	山田	俊雄殿	中40回	7/6	渡辺	悦朗殿	中40回	8/1	今庭	哲雄殿	中33回	8/2	菊地	新一殿	高5回	8/8	小松	龍彦殿	高11回	8/20	赤木	聡殿	高4回	8/22	和田	義郎殿	高7回

編集後記

平成十七年度秋季号をお届け致します。今回も同窓生の方々から数多く、二中・二高への熱い思いをお寄せいただきました。また、各界の皆様のご活躍を紹介できましたこと編集係といたしまして紙面に事欠かず、感謝申し上げます。

同窓生に負けじと現役生も、文武一道、頑張っております。今号では定期戦五種目制覇、弓道部のインターハイ、英語スキット甲子園最優秀賞をはじめ、各部の活動成果をお伝えすることが出来ました。そしていよいよ、現三年生は高校生活の集大成の時期に入ります。彼らに心から熱いエールを送りたいと思います。

(黒澤 幸治 高43回卒)